【国語・小１・「ものの 名まえ」】①

育成を目指す資質・能力

（知識及び技能）　身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づくこと。
言葉には物事の内容を表す働きがあることに気づくこと。
（思考力、判断力、表現力等）　互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話しをつなぐこと。
（学びに向かう力、人間性等）　言葉がもつよさを感じるとともに、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度。

ICT活用のポイント

ICT端末上で言葉カードを操作・分類することで、語句のまとまりへの気づきを促す。

【つかむ】
身近なことを表す言葉を分類し、語句のまとまりがあることに気付く。

【追究する】
まとめて表す名前と一つ一つを表す名前の言葉を使って、お店屋さんごっこの準備をする。

【まとめる】
お店屋さんごっこを行い、お店屋さんとお客さんで買い物のやりとりをする。

単元の概要

単元前半で、まとめて表す名前（上位語）と一つ一つを表す言葉（下位語）について理解し、後半ではお店屋さんごっこを通してそれらの言葉を繰り返し使いながら友だちとのコミュニケーションを図る。

ICT活用の概要（単元の第１時での実践）

〈導入〉
・イラストを**大型モニタ**に提示し、学級全体で仲間分けする活動を行う。

〈追究〉
・一人一人が**学習支援ソフト**を使って、野菜や果物、魚等の名前が書かれたカードを操作し、仲間分けする活動を行う。
・一人一人の考えを**大型モニタ**に一覧で映し、それぞれの考えを比べる。
・**大型モニタ**で子どもの考えをいくつか取り上げ、どんな分け方のしたのか学級全体で確かめる。

【国語・小１・「ものの 名まえ」】②

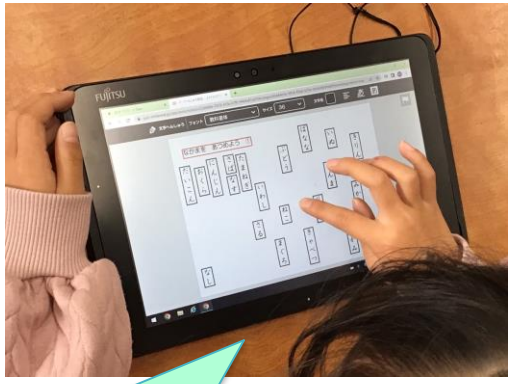
【事例におけるICT活用の場面①〈導入〉】

大型モニタに提示したイラストを学級全体で仲間分けする活動を行う。

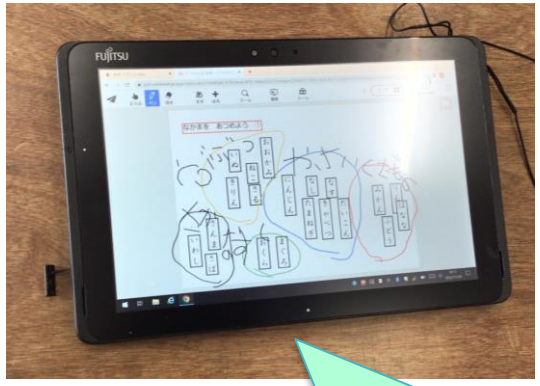
○導入から子どもたちが興味をもって活動に取り組めた。
○このあとに一人一人で言葉の仲間分けをする際の見通しをもつことができた。

【事例におけるICT活用の場面②〈追究〉】

一人一人が**学習支援ソフト**を使って、野菜や果物、魚等の名前が書かれたカードを操作し、仲間分けする活動を行う。

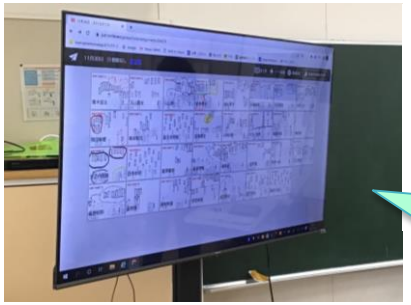


○カードを簡単に動かせるため、どういった仲間分けになるか試行錯誤を繰り返しながら考えることができた。



○仲間分けした言葉を線で囲み、どんな仲間なのかを書き込むことで、まとめて表す名前と一つ一つを表す名前の関係に気づくことができた。

【事例におけるICT活用の場面③〈追究〉】

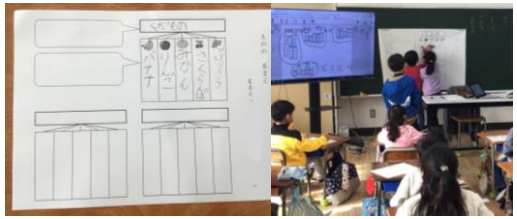


一人一人の考えを**大型モニタ**に一覧で映し、それぞれの考えを比べる。

○分け方の違いが見え、考えを全体交流する動機付けとなった。

子どもの考えをいくつか取り上げ、どんな分け方のしたのか学級全体で確かめる。

○教師が指し示しながら問いかけることで、分け方を具体的に理解できた。



最後はプリントに書いたり板書で確認したりして理解の定着を図る。

追究では子どもが教室内を歩いて言葉の仲間探しをする活動等もあり、低学年の実態に合わせてICTと体を使う活動を適切に組み合わせていた。

【活用したソフトや機能】
学習支援ソフト